

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-34213046

一口メモ

▼庄兵衛岩の洞門
赤滝を過ぎてしばらく行くと、探勝路は庄兵衛岩をくり抜いた洞門に入る。

内部は岩がむき出しで、水滴がしたたり落ち、スリルがあつて思わず速足になる。以前は絶壁を迂

回するように木の橋が架けられていたが、洪水のたびに流失したため、昭和四十年代に掘削された。

安芸太田町ふるさとづくりフォーラム

資源の再評価と活用法探る

本宮理事長がNPO法人の活動紹介



町の将来を話し合った住民パネラー（右から3人目が本宮理事長）

安芸太田町ふるさとづくりフォーラムが七月十一日、アドバイザーを招いて

川・森・文化交流センターで開かれた。町内で活動している住民が、パネルディスカッションと町内視察に参加した。NPO法人からは自然・環境部門を代表して本宮炎理事長が出席した。

「文人趣味」PR

三段峡の視察はわずか十五分だった。入峡前に本宮理事長が三段峡の柱の一つ「文人趣味」に絞って五分間でプレゼンした後、竜の口まで案内した。

参加者からは「観光地を文化の切り口で紹介されたのは初めての経験」、「期待感があり、とても楽しめた」など、短い時間だったが、好

評だった。約百人が参加したパネルディスカッションでは、町

取材続々 情報誌や人気番組

今年に入って民放三局、雑誌四誌、Webメディア

三社が三段峡を取り上げている。七月十四日には中国新聞の暮らしの情報誌「フエニックス」が、二十日には広島ホームテレビの「熟

ホタル観察会 「ガイドと一緒に安心」と好評

七月三日からの「三段峡ホタルWeek」で、今年初めてホタル観察会を企画した。生憎の台風や大雨で実施は一日だけになった。キャンペーン参加者五人

のほかに、十人以上が飛び入りで同行した。町外の人が多く、小林久哉さんが入り口周辺で二時間かけてガイドした。

アンケートには、「ホタルのことを知れてよかった」、「ガイドと一緒に観察できて安心だった」などが寄せられ、好評だった。来年以降も実施して、ホタルの生態や三段峡の自然、環境をPRするイベントに定着させる。

南峰と歩く ①

石樋（いしどい）

遅い春に誘われ、多くの人が花見

石樋は正面口から約一・五キ、女夫淵に沿って右に曲がり、小さなピークを越えた所にある。約二百メートルの直線的な河道と露出した岩盤によってできた「樋」のように見えるのでこう呼ばれている。

平坦な面になっている。季節は初夏、遅い春の訪れに誘われ、多くの人が弁当を広げて花見をしていた、と熊南峰は記述している。

■雪解け水爽やか

ヤマブキ、ツツジが岩盤のあちこちに咲く。ヤマザ

味わえない迫力がある。下流の右岸に小さな滝がある。高下務さんによると、

■大雨で新旧交代

南峰は女夫淵の上流に二條の女夫滝があると書いてある。新しい滝はなかった

一九八八年の大雨で突如、出現した。侵食がほとんどなく、最近の滝と言われ

のだから、この滝は含まれない。侵食の具合から、新しい滝の下流の小さな滝が女夫滝だろう。

南峰が見た滝は今、ほとんど枯れた状態になっている。山中の水の流れが変わって、新しい滝へ移ったようだ。（松尾 俊孝）

三段峡の河童を自認

小林 久哉さん



長淵でカヤックスクールを経営する小林さんは、自ら三段峡の河童と名乗る。「この水の美しさを伝えたい」。

川を見つめる目は優しいが、濁ると表情が曇る。「大雨やダム放流の影響を受けるのは仕方ないのだが」とつぶやく。

動植物にも造詣が深く、探勝路の脇にひっそりと息づく姿を撮って、丹念に記録する。ときにはガイドも引き受け、魅力を発信する。清流や小さな命に心を寄せる、童心を失わない河童さんだ。（炎）

この人